

ここ数年にわたり、わたしは前立腺がんの治療を受けています。その小さな腺の中に潜む病気を取り除くため、二度目の低侵襲手術を受けてからもうすぐ1年。今までのところ、手術で摘出しないことを選択していますが、ありがたいことに、いままでのところ痛みを感じたことはありません。

最近、わずかに残っている癌を取り除く2回目の治療の可能性について、担当の泌尿器科医にオンライン診察を実施してもらう機会がありました。医者の提案は、あと6ヶ月は様子をみようということだったので、わたしは彼の助言に従い、経過を観察することにし、現在もスキャン結果を待っているところです。

このがんとは長い付き合いなので、次の治療をはじめるまで待つことは、とても妥当なことだと私自身思っています。いわゆる、「待機療法(注意深く見守る)」という大変なタスクの必要性も、理解しています。わたしが最初にこの病気だと診断された際、利用可能なすべての選択肢を調べつくしました。前立腺がんは進行が遅く、統計的に見ても、このがんで亡くなる方はほとんどいないのです。

この苦悩に対するわたしの姿勢は、主にある信仰を中心としています。わたしのクリスチャンとしての旅路は、多くの試練と祝福に満ちていますが、イエスに従う者として、主を見上げ、待つ時が多くあることを理解するようになりました。聖書を学んでいると、この見るという概念と、待つという概念によく出会います。ダビデ王は詩篇27:13-14で、「ああ、私に、生ける者の地で主のいつくしみを見ることが信じられなかったならー待ち望め、主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め、主を。」神の御心にかかった者として知られているダビデからの素晴らしいアドバイスです。

この数年、私たちは皆、不安な瞬間に直面してきました。大病を患ったわけではなくとも、パンデミックや、不透明な経済状況、そして刻々と変化する労働環境は、多くの私たちに未曾有の変化をもたらしました。ビジネス面でも、これほど生計を立てるのが難しい時代はなかったと思います。なので、わたしはこの時期を通して、よりハードに、かつスマートに、仕事をすることを学びました。

保険ビジネスにおいて、わたしは常にお客様と直接お会いすることを希望していますが、それも健康上の理由で難しくなってきました。そのため、わたし自身お客様のニーズにより応えられるよう、一層努力しました。ですが、このパンデミックの影響で、お客様の生活もまた複雑化し、コミュニケーションをとることが難しくなる方も多くいました。

このような際に役立つ、わたしが実践する「待機療法」の秘訣をご紹介します。まず第一に、私たちは強く一貫した祈りの生活を発展させ、維持する必要があります。キリストに従う者は、毎朝、神の武具を身につけることの意義を理解しなければなりません。使徒パウロがエペソ6:10-11で「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」と勧めているように、私たちは霊的な敵の策略に屈するという大きな誘惑に抵抗しなければなりません。

パウロはエペソ6:18でこう続けます。「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。」そうです、わたしの祈りは、個人的な必要のためだけではなく、神がわたしの人生で出会わせてくださった人々のために、または主のために励む、個人的にはあまり知らない人々のためでもあるのです。このようにして、わたしは神の家族の一員としての役割を果たそうと努力しています。

【適用】

1. あなたは、健康問題や経済危機などを含め、解決するまでにかなりの時間を要するような体験したことがありますか？もしあれば、どのように対応しましたか？

ようなものがありますか？状況を迅速に解決しようとする傾向がありましたか？それとも、主を見上げて待ちましたか？お答えください。

2. あなたは、注意深く見守るという言葉をもとにどのように理解していますか？このことを行うにあたっての利点と難点は何ですか？

4. あなたが手ごわい障害やさまざまな逆境に遭遇した際、どのように対応するかについて、あなたの信仰が果たす役割があるとすれば、それはどのようなものですか？

【参考聖書箇所】

3. ここ数年続いている新型コロナウィルスに関してか、またはそれ以外で、この1年間にあなたが遭遇した困難にはどの

詩篇 130:5-6; ルカ 12:35-37; エペソ 6:13-17; ペリピ 4:6-7; 1 ペテロ 5:6-9